

今週のズバリ こう見る

Analysis

大きく調整した場面を買う リスクマネーの受け皿が金

GOLD 金



岡地(株) 日本橋支店 投資相談部 コモディティアドバイザー 千葉 純平氏

ニューヨーク金は史上最高値を示現したことから、一旦は調整しよう。そのあと、リバウンドがあるが、目の調整安は見過ぎ、高値から大きく下げたところを買って大きなリターンを得たい。

石油は若干落ち着きを取り戻してきたような印象を受ける。この低価格では製品がコスト割れするとの懸念から原油の輸入を止めて、製品コストを上げようという動きも出ている。半面、製品を減産するのは需給が悪いからだということも忘れてはならない。

石油は若干落ち着きを取り戻してきたような印象を受ける。この低価格では製品がコスト割れするとの懸念から原油の輸入を止めて、製品コストを上げようという動きも出ている。半面、製品を減産するのは需給が悪いからだということも忘れてはならない。

OIL 原油



豊商事(株) 豊商人部 次長 稲川 仁氏

原油は70〜75ドルの揉合 エネルギー売りの巻き戻し

らしきものが出るようになった。ユーロも下げ止まっているので、原油は揉合局面に若干

月からドライブシーズンに入り、ファンダの買いが入る可能性はあるが、ハリケーンも含

海外市場でユーロ売りのドル買いが続いている。リスクマネーが金に流入しているが、このまま大相場が続くかは疑問だ。利益を得ようと、どこかで反対売りが出てくると、7月から8月にか

けて、東京金期先はグラム当たり3,300円割れがあると思っいる。そこが本場の買い場となる。この過程で、新たな経済不安が起こつて、円高になり、金の下げが加速するようなら、絶好の買い場となる。なお、ここでの円高はピークとなる可能性もある。金を買われる根底は、やはり金融不安だ。金利のつかない金ETF(上場投資信託)の保有高が増加を続けている理由は、やはり、

経済が不安定で、そのリスクを軽減していく受け皿を求めているからだ。目下、金融不安で国債にリスクマネーが流れているが、受け皿として限界が出てきた場合、金に流入することは目に見えている。長期的には、金ETF人気に窺えるように、金がリスクマネーの受け皿として機能し続けるのは間違いない。今は、目先の安値を無視して、大きく調整した場面を買い仕込みたい。

近づいているような気もする。といつても、揉合から80ドル台に上がるのも難しい。7月に入るとドライブシーズンが始まり、ファンダの買いが入り始めるので、6月中に下げ止まるかどうか、ポトムを形成出来るかどうかポイントで、ニューヨーク原油は株価の動きを睨みながら70〜75ドルのレンジで推移しよう。

ドル下落の公算が大きい 88円台試す場面を想定!!

FOREX 為替



T&Cフィナンシャルサービス 代表取締役 吉田 恒氏

ユーロはすでに半年下げ続けている。これは明らかに下げ過ぎだ。そろそろ反発に転じる時だろう。1ヵ月前に世界同時株安となり、これで欧州債務危機は織り込まれた。米国のゼロ金利が続く以上、ユーロは下げにくい。

米景気回復はマダラ模様であり、出口戦略の話題は聞かれなくなった。これは米国の低金利政策継続を意味する。ただ、ドルの急落も考えにくい。過去には、LTCM(ロングターム・キャピタル・マネージメント)破綻事件が発生した時、アジア通貨危機が同時発生し、ヘッジファンドが破綻した。しかし、現在、ヘッジファンドが破綻するような状況

はない。当面、ユーロは債務危機により下げた分の修正高へ向かうのではない。例年、6月はドルが天井か底をつける季節習性があるので、ユーロが底をついて基調を転換する可能性が高い。その分、ドルは下降するという構図である。

ドル・円相場は今年1〜2月に米出口戦略が話題にのぼり、利上げ観測などからドル買い・円売りとなった。しかし、米政府に利上げの選択がなくなったため、際立ったドル高はない。今後、ドルはユーロ高を反映して売られ、ドル・円でも1ドル＝90円を割り、先につけたドルの安値88円台を試す場面を想定する必要がありそうだ。